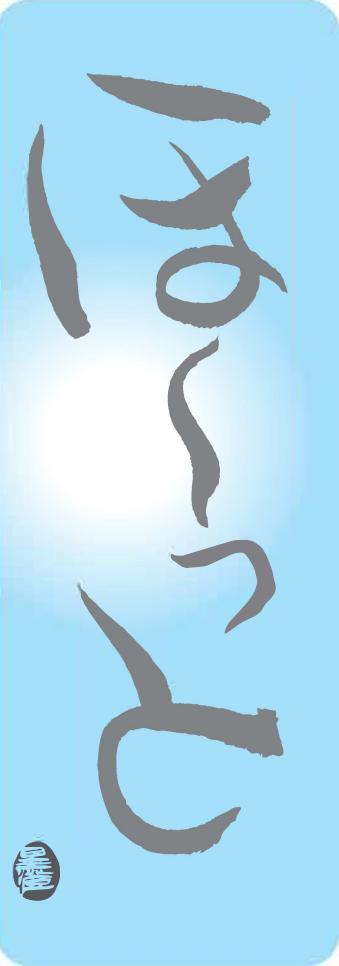


瑩山禅師ものがたり ②



No. 76
2025 Winter

含松山南寺

寺の運営に専念されます。永光寺には

「真実の仏道は、善し悪しを比較したり対立したり、そういう判断の入り込む余地は一切ない。それは雑念でしかない。昔の人も教えていた。雑念が続ければ病気になる。雑念を断てば良薬となる、と」

そして、

「未来永劫に師から弟子へ仏法が相続されていくことは、諸君の仏法を興隆させようという熱意にかかっている。法灯が絶えることなく継承され、受け継いだ代々の僧が仏様に代わって衆生

濟度を実践してゆく、それを私は願っている」

二つの寺の住職を愛弟子二人に譲り 安心したかのように旅立たれました

最初の大般若経転読も

一三三四年七月七日、瑩山さまは總持寺の住職を愛弟子の峨山禅師に譲る儀式を開催されました。そこに参列した人々に向けて、瑩山さまは「自分が峨山禅師を悟りの境地に導き、仏法のすべてを授与した」と、そして、「これから總持寺を隆盛に導くにふさわしい人物である」と表明されたのです。

その七月七日の夜、新住職の峨山禅師から受戒された人が十五人にのぼりました。八日の夜も十三人が受戒しました。受戒者は出家した人のほうが多い

かつたと言います。

九日にはかねて求めていた大般若経が六百巻届きました。翌十日には着いたばかりの大般若経を転読する法会が催されました。瑩山さまも大般若経の転読に加わり、般若経の教えについて詳しく説かれました。これが總持寺での大般若経転読の第一回目となつたのです。

すべての行事を終えて、瑩山さまは永光寺に帰山されました。

その七日後の八月十五日のことでし

瑩山さまはすべてを愛弟子二人に託されたのです。

説法しながら遷化の時を

自らの命の終りをお悟りになつた瑩

山洞宗の未来を峨山禅師と明峰禅師に託された瑩山さまの慧眼に狂いはありませんでした。「二十五哲」と言われる峨山禅師が養成した弟子たち、

「明峰十二門派」と呼ばれる明峰禅師が育てた弟子たちが、北海道から九州まで全国に曹洞禅を広げて行きました。曹洞宗は瑩山さまの登場によつて、大きく成長し発展したのです。

弁天の朱唇にはへる初巳かな

大島直子

弁財天祈禱会にお参りして

新しい年の福を授かりましょう

まもなく新しい年を迎える。臨南寺では一月十五日に弁財天祈禱会を修行いたします。

弁財天様は七福神でただ一人の女性の神様です。音楽の才能をはぐくみ、智恵を授けてくださいとともに、芸能や学問で成功に導き、金運や財運をもたらす神様です。

かつて臨南寺の北には長居池があり、弁財天様が地域の守り神として信仰されてきました。臨南寺の弁財天様は、長居池の弁財天様をお移ししたもので

す。もたらしたもので、大きな靈力を持つと言われております。

皆様の無病息災・家門隆盛・家内安全を願つて、お札、お守り、破魔矢をお授けいたしま

す。新しい年が穏やかでありますよう、また世界中に平和が訪れますよう、心を込めてお祈りいたしましょう。



皆様の無病息災と家内安全をご祈念いたします

臨南寺百景



『一華開五葉』の掛軸

この掛軸は、大本山永平寺貫首を務められた故・福山諦法禪師の筆になるものです。

「一華五葉を開く」——これは、インドから中国に禪の教えを伝えた「ダルマさん」こと達磨大師が、弟子の慧可大師に詠んで与えた伝法偈の一節です。

その伝法偈の趣旨は「私が印度より遙か彼方の中国に来て、仏の正しい教えを伝え、多くの人々を迷いや煩惱・苦惱から救

つた。それは一つの華から五つの葉を生み、自然により多くの人の迷いや苦惱を救うものになるだろう」というもので、「一つの華から五つの葉を生み」が掛軸の言葉になっています。

道元禪師もこの言葉を引用して、「一華も五葉も今この時この場所で、ありとあらゆるままに現れる」と説かれています。

この言葉は、禪宗が五つの宗派に広がり栄えていたことを達磨大師が予言したともいわれており、一般的には、家族や子孫の繁栄と幸せを祝うおめでたい言葉として使われています。

掛軸は休憩所でご覧いただけます



福山諦法禪師



「はんにや心響」 第八回

『大切な教え』

職業柄たくさんの弔辞を聴く機会があるわけですが、その中でも記憶に残る弔辞があります。

寡黙な印象の農家のおじいさん（享年八十六歳）への弔辞。三十歳ぐらいの孫娘が自分の娘一人の手を引き、靈前に立ちこう語りました。

「おじいちゃん、両親が共働きで小さいころからずっと私の面倒をみてくれたね。学校から帰ると『履物をそろえなさい』とよく言われたよね。『いつできますとただいまは小屋にいるじいちゃんに聞こえるように大きな声で言いなさい』。ご飯を食べるとき『ちゃんと手を合わせていただきますって言いなさい、目の前の命と作ってくれた人に感謝をするんだ』って…『ありがとうごめんなさいは大切な言葉だ、おへそを向けて言いなさい（相手に身体を向けての意）。たつたそれだけだけど、その時は何度も言われてイヤだなあと想うこともありました。でも、今では私が子どもたちに同じことを言つ



山形県酒田市 正常院住職
成澤祐吾老師

一月

弁財天祈禱会（本堂）

* 一月十五日 午前十時～十時半

新年を迎えて最初の年頭法要です。新しい年がよい年になりますよう、皆様の厄払い福を招く法要を行います。（回向料一萬円）

二月

糸尊涅槃会（本堂）

* 二月十五日

お糸尊様の御命日に、涅槃に入られるお糸尊様のお姿を描いた涅槃図を飾り、供養と感謝の法要を行います。

年始の臨南寺

* 十二月三十一日～一月三日は、寺務所を閉めさせていただきます。

* 三が日の花の販売はございません。

* 開門は午前五時、閉門は午後九時となつております。



臨南寺行持予定（一～二月）

坐禅会

毎月第一土曜日 午前八時～ 本堂にて

* 一月と八月はありません。中止する場合がありますので、前日にお電話でお問合せください。

今、私たちは子孫にどのような姿を見せ、なにを伝え遺すべきか？ 考えさせられます。

合掌

秋のマトリ合同法要

堂内に読経が満ちるなか

ご焼香していただきました

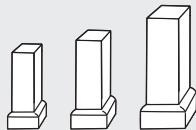
十一月九日（日）午後二時から、がつし
よう園マトリの合同法要が営まれました。

マトリにご納骨された皆様の法要が執り
行われ、堂内に読経の声が続く中でご焼香
をしていただきました。あいにくの雨でし
たが、多くの方にお参りいただきました。
「マトリ」とはサンスクリット語で「お
母さん」のこと。お母さまのふところに抱
かれて永遠の安らぎが得られますようによ
祈る思いが込められています。



読経の声が満ちるなかご焼香していただきました

お墓じまいのご相談は
お早めに寺務所まで
どうぞ



「お墓を継いでくれる人がいない」「最近、お墓参りが大
変になってきた」——今、さまざまな理由でお墓じまいを
考えている方が増えています。

ご先祖さまからの思い出がたくさん詰まった、ご家族のため
の大切なお墓です。お墓じまいといつても、何から手をつけたらいいのかわからない人がほとんどだと思います。

そうかといって、何もせずに先伸ばししていると、時間だけ
が過ぎてしまいます。万一、当事者が亡くなられると、
役所の手続きを含めてさらに複雑さが増して、余計な費用
も掛かってしまいます。

臨南寺には、永代供養付きのがつしょう園マトリもござ
います。お元気なうちに、早めに寺務所にご相談ください。



編集後記

「ほ～っと」76号
令和7年12月
りょう が りん
編集・発行：棱伽林
「ほ～っと」編集室
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32
TEL 06-6698-1001
FAX 06-6697-3330
Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp
ホームページ：http://rinnanji.com

年末年始の墓参のゴミは コンテナにお入れください

年末年始の墓参で出たゴミは、設置された
コンテナにお入れください。

墓苑を美しく清潔に保っていただきますよ
うご協力をお願いします。

なおこのコンテナには、ご家庭のゴミはご
遠慮いただき、墓参でのゴミ以外は投棄しな
いでください。